

キソドリル^⑪ グラフをもとに考えよう

(1) 棒グラフは量の大小を棒の長さで示したもので、データの比較に適しています。

この棒グラフは、1つの項目に対して、平成三十年度と令和五年度の結果が並んでいます。令和五年度は平成三十年度と比べてどれぐらい**増加**（**減少**）しているかに注目することがポイントです。

また、年度を逆に読み取ったり、増加と減少を間違えたりしないようにしましょう。

①「書店で実際に手に取って選ぶ」人の割合は、令和五年度で57.9%、平成三十三年度時点では66.7%で、令和五年度の方が約9%減少しているので間違っています。

②4つの項目のすべてについて、平成三十年代から令和五年度にかけてどれくらい増えて（減って）いるのか計算してみましょう。「伸び率が最も大きい」（＝最も増加している）項目を問われているので、令和五年度のほうが約6%増加している「インターネットの情報を利用して選ぶ」が正解です。

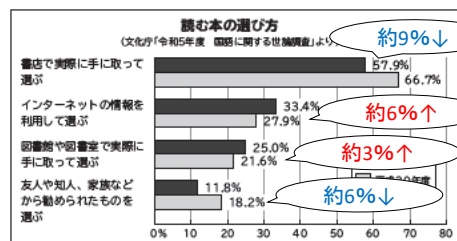
「書店で実際に手に取って選ぶ」は約9%と最も大きく変化していますが、こちらは平成三十三年度から令和五年度で減少しているため、「伸び率が最も大きい」という設問文の条件に当てはまりません。ひっかからないように注意しましょう。

③「友人や知人、家族などから勧められたものを選ぶ」人の割合は平成三十年度から約6%減少しているので間違っています。

(2)

まずはグラフの増減に注目して予想を立ててみましょう。
そして、あなたがそのように予想した理由に、グラフの数値を根拠にして書きましょう。例えば、「書店で実際に手に取って選ぶ人がますます減る」は、グラフの平成三十年代から令和五年度にかけて約9%減少している結果から予想できることですね。

このようにグラフの具体的な数値を根拠に予想・意見を考える（書く）ことで説得力を出すことができます。



1 あなたは「読書習慣」についてのレポートを書く課題に取り組んでいる。「自分が読む本をどのように選ぶか」に関する調査結果のグラフを見て、次の問いに答えよう。

(1) グラフから読み取ったことが正しければQ、間違っていたら×を()に書き入れよう。

① 令和五年度は平成三十年
度と比較すると、「書店で実
際に手に取って選ぶ」人が
約9%増加している。

(×)

② 年度を比較して伸び率が最
も大きいのは「インターネット
の情報を利用して選ぶ」
人である。

(○)

③ 令和五年度は平成三十年
度と比較すると、「友人や知
人、家族などから勧められ
たものを選ぶ」人が増加し
ている。

(×)

(2) このグラフから今後予想されることを、ヒントをもとにして考えて書こう。

数値が最も減少した項目や、最も増加した項目に着目しよう。この変化がそのまま続いたら、どうなるだろうか。

また、「理由」はグラフの数値の増減をもとに書こう。

予想されること ④書店に行って本を選ぶ人がますます減り、インターネットで本を選ぶ人がますます増えると予想される。

理由 ④書店で実際に手に取って選ぶ人が五年で約九%も減少している一方で、インターネットの情報を利用して選ぶ人が約六%も増えているから。

① 何についてのグラフなのか、正しくグラフを読み取ろう。

単位(人数、パーセントなど)や数値を正確に読み取ろう。

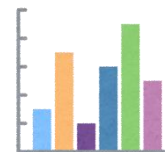
② グラフの特徴を伝えよう。

A はっきりとした数値に着目しよう(最大値/最小値など)。

イ 増加・減少などの変化に着目しよう。時間による変化がある場合は、いつの数値なのかもお伝えよう。

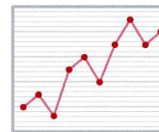
ウ 項目(年代など)を比較し、その違いに着目しよう。

グラフには主に以下の種類があるよ。



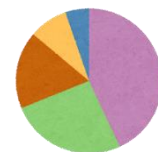
①棒グラフ

棒の長さによって数量を示す。
数値が大きいもの、
小さいものに注目！



②折れ線グラフ

時間の推移による変化を示す。
増減、数量の変化に注目！



③円グラフ

円全体100%に対する
各項目の割合を示す。
割合が大きいもの、
小さいものに注目！



④帯グラフ

帯全体に対する
各項目の割合や数値を示す。
同じ項目の増減に注目！

グラフは、項目を比較しやすかったり、数量の変化や全体に対する割合が分かりやすかったりと、正しい情報を読みとる手助けになるんだ。

